

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
419	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Protective effect of alcohol consumption for fatty liver but not metabolic syndrome. メタボリックシンドロームではなく脂肪肝に対するアルコール消費の保護効果	
<b>執筆者</b>	
Hamaguchi M, Kojima T, Ohbora A, Takeda N, Fukui M, Kato T.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
World J Gastroenterol. 2012 Jan 14;18(2):156-67.	
<b>キーワード</b>	
アルコール消費 メタボリックシンドローム 脂肪肝	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 日本人男性と女性において、メタボリックシンドロームと脂肪肝に対するアルコールの及ぼす効果を検討した。	
<b>方法：</b> 一般病院で行われた健康診断を用いた横断研究を行った。本研究には 18,571 名の日本人男性と女性が参加した。年齢は 18-88 歳、平均 BMI は 22.6 であった。標準化された質問票が使われた。1 週間当たりのアルコールの総消費量が算出され、4 つに分類された。脂肪肝は国立コレステロール教育プログラム成人治療パネル改訂版と新しい国際糖尿病連盟 (International Diabetes Federation) の評価基準に合わせて超音波を用いて評価した。	
<b>結果：</b> メタボリックシンドロームの有病率はほとんど変わっていないのにも関わらず、適度なアルコール消費に注目が当たったことによって脂肪肝の有病率は男性と女性ともに低下した。男性の脂肪肝による有病率の全ての分類において、アルコール消費が全くないもしくは最小限の人たちの有病率よりも低かった。女性では適度なアルコール消費のために脂肪肝の有病率は、アルコール消費が全くないもしくは最小限の人たちの有病率よりも低かった。ロジスティック回帰分析によりアルコール消費が少ない女性のメタボリックシンドロームに対するオッズ比は 1.0 未満に低下したが、男性では顕著ではなかった。あらゆるアルコール消費レベルの男性と軽度～適度なアルコール消費レベルの女性における脂肪肝のオッズ比は 1.0 未満であった。	
<b>結論：</b> 軽度～適度のアルコール消費は脂肪肝に対して望ましい効果があるが、メタボリックシンドロームの日本人男性と女性には当てはまらない。	